

鉄骨工事 Q&A	工事現場溶接	柱継手	制定	2011年7月1日
			改訂	2019年4月1日

Q. コラム柱の柱継手で、裏当て金を差し込み式にした場合の留意点は？

A.

柱継手部の食違い防止で採用される例が多い方法ですが、採用にあたっては以下の注意が必要です。

- ① 柱内に雨水等が入らないように養生する処置が必要
- ② 下柱の裏当て金は、施工性を考慮してテーパ加工がされているが、このテーパによる柱材との隙間に雨水や塵埃が侵入している可能性があるために、溶接前にバーナ等で加熱・蒸散させる必要がある。
- ③ 裏当て金に塗布してある溶接用の下塗りが、上柱挿入時に剥がれて、上柱と裏当て金の間に不純物として残る場合があり、溶接前に除去する必要がある。
- ④ 上柱内部に取付けた、裏当て金の受けピースおよび裏当て金に、自重が掛かるので強度上必要な溶接量を確保する必要がある。

